

救急医学

1 構成員

	平成16年3月31日現在
教授	1人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	1人（1人）
助手（うち病院籍）	3人（2人）
医員	2人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技官（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	0人
合 計	8人

2 教官の異動状況

- 青木 克憲（教授）（H14. 11. 16.～現職）
 仁科 雅良（助教授）（H11. 4. 1.～現職）
 伊熊 睦博（助手）（H15. 4. 1～H15. 7. 31）
 古田 隆久（助手）（H15. 8. 1.～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成15年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	2編（1編）
そのインパクトファクターの合計	0
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	1編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	6編（6編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	8編（8編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	2編（2編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Fujishima S, Aiso S, Hori S, Aoki K, Aikawa N: Genetic polymorphisms in the promoter region of interleukin-8. International Congress Series 1255: 95-97, 2003

2. 佐々木淳一, 藤島清太郎, 青木克憲, 堀 進悟, 相川直樹: 基礎傷病の有無によるLPS反応性の差異とサイトカイン産生抑制剤による影響 — マウス熱傷後septic ALIモデルによる検討 — 臨床呼吸生理35(1): 51-54, 2003

インパクトファクターの小計 [0.00]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 青木克憲, 馬場正三, 葉季久雄, 相川直樹: 出血性ショックの組織酸素代謝指標としての胃粘膜pH・PrCO₂ ICUとCCU 27(8): 782-783, 2003

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 仁科雅良, 小濱啓次: 単純イレウス. 救急医学28(1): 97-100, 2003

2. 青木克憲, 仁科雅良, 吉野篤人: 下腹部痛. 救急医学 27(10): 1389-1394, 2003

3. 青木克憲, 仁科雅良, 吉野篤人: 侵襲後の内分泌・代謝の変動と栄養管理. 日本外科学会雑誌 104(12): 816-821, 2003

4. 青木克憲: Critical Careの新しい潮流. 救急・集中治療 16(3): 378-379, 2003

5. 青木克憲, 仁科雅良, 吉野篤人: 重症熱傷 — 循環動態の変動とその対応 — 救急医学 28(2): 209-213, 2004

6. 青木克憲: 多臓器不全. 今月の治療 10: S331-S334, 2004

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 仁科雅良, 小濱啓次: 腹痛. 堤晴彦・小野一之 (監) 救急医療実践マニュアル, 日経BP社 2003
2. 青木克憲: 緊急時の見分け方と対策. 上西紀夫, 平田公一 (編) 消化器外科スタッフマニュアル, 中外医学社, 2003.
3. 青木克憲: ICUの入室基準と約束事項. 上西紀夫, 平田公一 (編) 消化器外科スタッフマニュアル, 中外医学社, 2003.
4. 青木克憲: Immunonutrition. 渡辺明治 (監) 小腸機能から見た経腸栄養ハンドブック, メディカルレビュー社, 2004
5. 青木克憲: 外傷患者の全身管理. 相川直樹, 堀進悟 (編) 救急レジデントマニュアル第3版, 医学書院, 2003
6. 青木克憲: 胸部外傷. 相川直樹, 堀進悟 (編) 救急レジデントマニュアル第3版, 医学書院, 2003
7. 青木克憲: 多発外傷. 相川直樹, 堀進悟 (編) 救急レジデントマニュアル第3版, 医学書院, 2003
8. 青木克憲: 高温による障害 (熱中症). 山口 徹, 北原光男 (編) 今日の治療指針2003年版—私はこう治療している, 医学書院, 2003.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 仁科雅良, 川辺昭浩: 内視鏡下に胃洗浄を施行した硫酸銅中毒の1例. 日本臨床救急医学会雑誌 6(5): 487-489, 2003
2. 仁科雅良, 川辺昭浩, 漆田毅: 意識障害を呈したチョウセンアサガオ中毒の1例. 日本救急医学会東海地方会雑誌 7(1): 17-18, 2003

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成15年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成15年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	3件 (171万円)

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	1件
(2) シンポジウム発表数	0件	1件
(3) 学会座長回数	0件	7件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	17件
(6) 一般演題発表数	1件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

口頭発表

1. Aoki K, Nishina M : An experimental study on hypotensive resuscitation of near-lethal uncontrolled hemorrhage : Effects on tissue dysoxia, mortality and end-organ function at 72 hours. The 3rd Hamamatsu-Kyungpook Joint Symposium Sep.20,2003, Daegu, Korea

(2) 国内学会の開催・参加

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 青木克憲 : 静岡県の救急医療 — 基調講演 — 救急医療について, 第43回静岡県病院学会, 静岡, 平成16年2月.

3) シンポジウム発表

1. 青木克憲, 葉季久雄, 山崎元靖, 相川直樹, 鈴木 昌 : シンポジウム「重症熱傷の病態生理の新知見」広範囲熱傷における心機能, 組織酸素代謝, 免疫能の変動について. 第29回

日本熱傷学会総会・学術集会，大阪，平成15年6月.

4) 座長をした学会名

1. 仁科雅良：第65回日本臨床外科学会総会 一般示説演題 門脈・腸間膜血管
2. 仁科雅良：第31回日本救急医学会総会 一般示説演題 骨盤・四肢
3. 仁科雅良：第40回日本腹部救急医学会総会 一般示説演題 外傷2
4. 青木克憲：第39回日本腹部救急医学会総会 一般演題 腹部一般1
5. 青木克憲：第6回日本臨床救急医学会総会 循環器
6. 青木克憲：第18回日本ショック学会総会 一般演題
7. 青木克憲：第31回日本救急医学会総会・学術集会 教育講演「肺保護戦略」

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

青木克憲：日本救急医学会 評議員

日本臨床救急医学会 評議員

日本救命医療学会 評議員 編集委員

日本外傷学会 評議員

日本熱傷学会 評議員，認定医委員会委員

日本SHOCK学会 評議員

日本腹部救急医学会 評議員

日本外科代謝栄養学会 評議員，用語委員会委員

日本血液代替物学会 評議員

日本消化器病学会東海支部 評議員

日本DIC研究会 評議員

日本救急医学会東海甲信越地方会 理事

仁科雅良：日本救急医学会 評議員

日本臨床救急医学会 評議員

日本外傷学会 評議員

日本臨床外科学会 評議員

日本腹部救急医学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	1件	0件

(1) 国内の英文雑誌の編集

青木克憲 日本救命医療学会編集委員

9 共同研究の実施状況

	平成15年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成15年度
産学共同研究	0件

11 受 賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 侵襲下における組織酸素代謝障害の解明と臨床モニタリングの開発

侵襲下における組織酸素代謝変動について、消化管粘膜二酸化炭素分圧の測定値を安定させるために、胃トノメータ・カテーテルの改良に取り組み中である。消化管臓器のリアルタイムモニタリングが、今後のcritical care medicineに与えるインパクトは大きいと考えられる。

2. 侵襲下における凝固線溶系の変動

外傷・熱傷による外科的DIC病態を種々のメディエーターとの関連から検討し、炎症反応の制御をいつ開始すべきか、そのtherapeutic windowを追及している。

3. 広範囲熱傷における大量輸液療法の再検討

広範囲熱傷の初期大量輸液療法について、酢酸リンゲル液の有用性を示すデータが得られたので、今後も症例数の増加に努め新たな輸液療法の指針を追及する。

4. 制御不能の出血性ショックに対する低血圧蘇生の有用性に関する実験的検討

外傷による制御不能の出血性ショックに対して低血圧蘇生（平均血圧60mmHg）で維持する有用性を明らかにした。また、臓器不全対策としての微小循環蘇生法として、hyperoxiaによる組織酸素代謝失調の治療、赤血球変形能の改善策および赤血球よりも粒径の小さい人工酸素供与体の有用性を実験的に検討する。

5. 心肺蘇生における炭酸水素ナトリウムの投与に伴うparadoxical acidosisの解明

心肺蘇生の国際ガイドライン2000は、炭酸水素ナトリウムの投与を、心筋細胞内への二酸化炭素の拡散によりparadoxical acidosisを生ずるとして推奨していない。心筋細胞内pHおよび電解質代謝を検討し、このアルゴリズムを検証する。

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

1. 制御不能の出血性ショックモデルの開発

従来の計画的な低血圧モデルは臨床病態を反映しないことから，再現性のあるUncontrolled Hemorrhage Modelの作成に努めてきた。平成13年から，ビーグル犬で，大動脈4mmTearの実験モデルを作成し，再現性のある結果を得た。今後，ウサギにおいて追求したい。制御不能の出血性ショックに対する低血圧蘇生の有用性に関する実験的検討（平成13年度～平成14年度科学研究費補助金（基盤研究C2）研究成果報告書（課題番号13671613））を報告した。

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道